

【めむろ未来ミーティング】

令和8年8月20日(木)

18:30～20:13

芽室町どんぐり会

■参加者 芽室町どんぐり会 11人

■芽室町 町長、健康福祉課長、同課長補佐兼障がい福祉係長、広報広聴係主査

- 1 町長挨拶
- 2 芽室町どんぐり会代表挨拶
- 3 出席者自己紹介
- 4 意見交換

●町長挨拶要旨

毎年未来ミーティングの希望いただいております、ありがとうございます。現在、令和9年度からの次期総合計画を策定中のため、参考となるご意見となるかと思う。よろしく願いしたい。

●どんぐり会代表挨拶要旨

どんぐり会は今年4月の総会で、今年度中に活動を整理して解散することを決めた。一昨年は50周年記念行事も実施でき、長い間お世話になってきた。解散の要因は会員数の減少と高齢化。正会員の平均年齢は70歳を越え、役員のなり手も減少してきたため、意思決定ができるうちに整理した方が良いと判断した。我々としても、今までの活動をどこか引き継いでいただけたところがあれば、持っている情報をお渡しできればと思っている。

今日はテーマを事前に提出しているが、ここに書いていないことも含めてどうぞよろしくお願いしたい。

◆各自自己紹介ののち、意見交換

●町長

先ほどの自己紹介で「解散により未来ミーティン

グができなくなることが悲しい」という声があったが、未来ミーティングは5人程度集まっていれば、お申込みいただければ、お申込みいただける。解散＝話す場がなくなるわけではない。例えばどんぐり会OB会など、解散後もご希望があればご検討いただきたい。

自己紹介を聞いていて、高齢者(65歳)になる前の年代のサービスが不安というお声があった。縦割りの現状はあるが、これからは垣根を取り払いしっかり対応していかなければならないと思っている。「高齢者福祉」「障がい福祉」のように四角四面でやっているとしっかりとした対応ができなくなってくる。もちろん制度なので簡単に全部を変えることにはならないが、町としてもそういう思いは持っていることをご理解いただきたい。まずは相談体制からだと思っている。分野・年代を問わず相談できる仕組みにもっていかなければならないと思っている。

●どんぐり会参加者

親が亡くなった時の分割協議で自署が必要だったが、娘は自分の名前を書くのが精一杯で住所は書けない。そうすると私が亡くなった時に遺産分割協議書が作れない。娘には住所を書けるようにと言っているが現状は難しい。代筆も認めるような制度を作ってほしい。

●町長

本人が同意していることが前提になるが、デジタルも発達してきているので、例えば指紋認証や顔認証など、自署筆以外の方法も認められる方法も出てくるのかもしれない。書けない人もいますので、国もそういうことを考えていかなければいけない。

◇1. 就労支援体制の充実についての件

●町長

就労までいけるかどうかの障害の程度にもよって変わってくると思う。一般就労して定着できる人もいますし、施設の中で暮らしていただかないといけない方など、色々なご事情があると思う。

一般就労の支援については、現在町では、チャレンジポート(地域活動支援センター)で仕事のマッチング

や就労後の定着支援をやっているのご相談いただきたい。定着や離職後の支援は、役場や基幹相談支援センターや芽室町版の無料職業紹介所などでも、障がいの有無に関わらずお手伝いもできるので、ご活用いただきたい。

福祉的就労も含めた包括的な支援システムでは、全世代・どんな分野においても相談に乗れるように、保健、医療、福祉、住まい、住民参加を総合的にみられるような仕組みづくりを現在進めている。皆さんの場合は、健康福祉課でも情報はしっかりおさえているので、何かあれば健康福祉課にも相談していただければ。

また、就労については、障がいの区分や程度の違いはあるかもしれないが、基本的に対応していく考えである。現状の体制についてはそういった状況である。充実についてはこれからも進めていく。総合計画にも書き込みをしていかなければならないと思っている。

●どんぐり会参加者

障がいのある弟が現在 63 歳だが、オークルから「65 歳になったらどうする」という話が出た。健康状態が変わらないなら今の状態がベストだと考えているが、老化で歩幅が狭くなったり、食事でもせ返るなど、色々出てきているのが心配。また、病院で検査したら、脳梗塞を 2 回やったあとがあると言われた。階段に滑り止めや手すりを付けたり、電気の消し忘れ予防のためにセンサーライトにするなど対策も必要だが、予防しすぎると本人がそれに頼りすぎてしまう。65 歳になった時どうすればいいのか、知識がない。

●町長

その方にもよるが、今は世間的にも労働力不足ということがあり、障がいをお持ちの方も教えたその作業をきっちりやっていただけているというところでは、評価も変わってきているので、仕事に慣れて定着しているならば、年齢のせいだめということはないと思う。ただし、入ったことで社内を混乱させるようなことだと、雇えないとか雇ったとしても短期間ということはある。

狭間を感じるのは、一定の年になれば老人福祉法あるいは介護保険の対象になり、介護認定を取って介護保険のサービスとして受けるという方法もあるかもしれない。住宅改修や手すりの設置などは、今の状況でも活用できる。今は障がい福祉サービスしか使えないが、65 歳を過ぎると双方どちらを使うか、考える余地はあると思う。

●どんぐり会参加者

65 歳まではオークルであれば職員と本人がコンタクトとれるが、65 歳を過ぎると(介護保険になると)誰が来るか分からなくなってしまうという問題もある。

●町長

制度も仕組みも縦割りになっているのは事実。横軸をさして流動的にやるというのが今のところできていないというのはある。

●健康福祉課長

基本的には介護保険が優先だが、自己負担が変わるので、あくまでもご本人やご家族と相談して決めていく形になる。自動的に介護保険に切り替わるものではない。

●町長

介護の方にいったからといって安心できるかというと、先ほどのお話のような悩みもでてくる。

◇2. 災害時の福祉避難所と個別支援計画

●町長

災害避難に関して、現在町として推しているのは個別避難計画の作成である。現状、高齢者を中心に 44 名の個別避難計画を作っている。皆様も個別避難計画作成に手を挙げていただき、事前に計画を作成していただきたい。全然知らない人に支援してもらうのは難しいならば、オークルの職員を支援者に設定できる可能性もある。計画として把握できていれば、我々もいざという時にそういう体制をとれる可能性もある。ただし、オークルの職員さんも被災するかもしれないので、支援者になっていても必ずし

も駆けつけられるかは分からないため、「可能性」という表現になっている。

現在作成している 44 人の個別避難計画は、基本的には近所の方が支援者になっている。オークルは西土狩にあるが、災害時に川を挟んで市街地まで助けに来ることが本当に現実的なのかという懸念はある。「いつも支援していただいている方に」というお気持ちは分かるが、現実問題として例えば道路が陥没して動けないといった懸念もある。これは計画を作る時の相談事項にしていっていると思うので、ぜひ計画作成について手を挙げてほしい。今のところまだ手上げがないと聞いている。

●どんぐり会参加者

個別避難計画の作成についてはどこで周知されているのか。

●健康福祉課長補佐

アンケート調査に同封してお送りしている。改めてチラシのコピーをお配りする。(その場で全員に配布)

●町長

総務課危機対策係または健康福祉課にご連絡いただきたい。

●どんぐり会参加者

我が家は西土狩(オークル)まで行くよりも自宅にいた方が安心なので、「自宅に待機します」と登録したい。

●町長

そういう風に登録していただけると我々も安否確認しやすい。

●どんぐり会参加者

(平成 28 年の)水害の時は保健師からすぐに連絡が来て、対応が早くてありがたかった。

●町長

個別避難計画は、お住まいの地域や状況にあわせて作る。計画は一人ひとりに合わせて作成するので

実はすごく大変なのだが、作っておくと支援の対応がスムーズにできるので、ぜひ手を挙げてほしい

●どんぐり会参加者

我が家は水害の恐れがある場所なので、手を挙げて個別避難計画について相談したい。

●町長

個別避難計画を作成すると、より迅速に、深く対応できる。一般の方には「避難所に避難してください」という話しかできないが、個別避難計画がある方はある意味特別な対応ができる。

●健康福祉課長

支援者の方を事前に決めるが、その方が当日対応できない場合は、支援のために対応することになるので。

●町長

計画があれば個別に指示も飛ばせる。一つの安心材料にはなると思うので、ぜひご検討いただきたい。

見守り交代支援については、7 月に健康福祉課と総務課危機対策係とオークルさんと、福祉避難所指定について意見交換させていただいた。オークルの職員さんからも「普段から慣れている人が支援できるのがベター」という話は出たと聞いているが、まだどうするかは整理がついていない。ただし、職員も被災する可能性もあるので、オークルの職員さんにすべてお任せすることが果たしてできるかどうか懸念もある。

オークル自体を福祉避難所に指定することも目指しているが、場所は市街地にあるカムカムやカムカム 2の方が、現実味がある。災害時にオークル(西土狩)に避難することが現実的かどうか。

●どんぐり会参加者

確かに、不安である。

●町長

むしろ、オークルの職員さんが福祉避難所になっ

たカムカムに来てもらうという形の方が妥当ではないかと思っている。もちろん、災害時に来られるかどうかは分からないが。

●どんぐり会参加者

オークルは送迎を委託しているが、災害の時にマイクロバスを運転できるように、職員に大型免許を取らせようとしている。

●町長

避難の時には、移動を少なくする方がリスクは少ない。道路もどこで陥没しているかもわからないので、徒歩で避難するのが一番安全。皆さんのお宅の近くにも避難所がある。

●どんぐり会参加者

できるなら、町内会で福祉的な役割を担っている民生委員さんたちと交流ができれば。昔はオークルの運動会に民生委員さんが来ていたが、今はなくなってしまった。子どもたちも見たことがある人だと、慣れるにしたがって意思疎通できるかと思う。所属している人（現状支援していただいている人）以外にも、町内会でもそういった立場の人と顔見知りになれるといい。

●町長

個別避難計画では支援員は2人つくので、支援員の方と事前に交流して顔見知りになっておくことは大切だと思う。

情報伝達について。前回の水害の時も、障がいをお持ちの方で、避難所に入りづらくて一時避難所の駐車場で車中泊をされた方がいたということは聞いている。避難所に車中泊をしていることを伝えてもらうと、例えば別の部屋を用意したりできる可能性がある。

これも、個別避難計画があると、もっとスムーズにいくと思う。例えば「避難所には入りづらい」ということであれば、別に部屋を用意しましょうとか、福祉避難所に行ってもらうなど、スムーズに対応できる可能性がある。

●どんぐり会参加者

熊本地震で、避難所に個別ブースを取り入れたらどうかという話が出たと聞いたが、芽室町は個別ブースは持っているのか。

●町長

個別ブースは持ってはいる。現在段ボールベッドが800くらいあるが、今度モンベルから簡易ベッドを寄付していただけることになっている。簡易ベッドは、段ボールベッドと違って組み立ても軽く、高さもあるので切り替えていこうとしている。

●どんぐり会参加者

以前の水害の時に、総合体育館に雑魚寝で1晩過ごしたのはつらかった。

●町長

総合体育館は床暖房を入れたので、以前よりは寒さをしのげると思う。

●どんぐり会参加者

個別支援計画の対象者本人がLINEで「無事です」とか「車中泊をしています」など安否や居場所を送れるようにできないか。

●町長

町のLINEでは、道路情報などを写真で撮って通報できる仕組みをとっているが、住民の皆さんそれぞれが町のLINEに安否情報をコメントすると、管理する側が消込をするのが難しいと思う。

●健康福祉課長

事業所に所属している人はグループラインを作って情報共有をしているところもある。支援して下さる方に安否を伝える方法は、計画を作る時にご相談できるのではないかと思います。

●どんぐり会参加者

町内会の関係で、役場職員向けの訓練に協力してい

る。そういった訓練を利用して、今出たようなことを、障がい者の方も含めた中でどう支援していくかというのを検討していただければ、職員だけでなく町民の方々も安心する材料になっていくと思う。

●町長

役場の災害対策本部訓練のお話かと思う。現状の訓練では、町民から訴えとか連絡に対して、どう対応するかという訓練まではできていない。でも、これからはそういう声をどう把握するのかや、場合によっては救助に向かったりというのも必要になってくるので、大事だとは思っている。

●どんぐり会参加者

町の言い分として「公助は職員も被災しているかもしれないので、自助と共助が優先」というのは分かる。芽室町は地震というよりは水害に備える必要がある。そうなればもう少し広い感覚で公助も考えて、助けてもらえるようになれば。高年齢化している中では、そういった部分も取り組んでいかないと、助かる命も助けられないという話になってくる。

●町長

公助も、1 人でも多くの人を助けたいと思っている。ただし、公が災害時にすべてに対応することはできない。役場職員も 200 人しか職員がいない中で住民 18,000 人全員を助けられるかというと、冷たいようだがそれはできない。最大限公助としてできる部分を考えて対応する。10 年前の水害の時も、役場の対応が悪かったなど苦情はたくさんあったが、どうやっても 100%は絶対できない。こちらを助けられても、あちらの助けられなかった人から文句が出る。だから先ほどおっしゃっていただいた自助・共助の部分が大事で、そこをしっかりとやっていただけるように我々も啓発していかなければならない。

●どんぐり会参加者

10 年前の水害で床上浸水の被害にあった。広報車の案内が聞こえたので車で避難したが、後日町の説明会の時に「大雨で広報車の声が全く聞こえなかった」

という人もいて、同じ町内会でも聞こえ方が違うので本当に難しいなと思った。

●町長

そういったこともあるので、雨の音でも聞こえるようラジオ(個別端末)を配布することにした。

●どんぐり会参加者

ラジオは町内個人に100%行き渡っているのか。

●町長

残念ながら行き渡っていない。町内でも危機感が全く違う。

●どんぐり会参加者

ブラックアウトの時、電気がない生活はすごく大変で、特にお風呂が困った。今は芽室町にお風呂はないので、停電したら大変かなと思う。

●町長

温浴施設の希望はずっとあり、自分も課題と思っているが、燃料高騰もあり温浴事業をやってくれる人がなかなかいない。町営でも温水プールの施設内に小さい温浴施設があるが、まちなかで民間資本で温浴施設をやっていただけたところがないか探しているが、採算が取れないため厳しい。

◇3.障がい者が理解しやすい支援体制

●町長

窓口対応の多くは、国が定めた様式を使用しているため、様式自体を変えるのは難しいが、説明する表記とかはあってもいいかと思う。名前や住所を何回も書かされる件については、職員が窓口体験調査を行ったところ 5 人で転入したときに名前を書く回数が 55 回に上った。そのため、基本4情報(氏名・住所・生年月日・性別)はマイナンバーをかざすと必要な書類に印字されるというやり方を取り入れている。システムがつかない申請は手書きになるが、広げていきたいと思っている。

●どんぐり会参加者

デイケアの交通費を3か月に1回申請しているが、毎日交通費のチェックをしなければならないが、JRは領収書が出るがバスは領収書がもらえない。定期券を買うなど色々な方法を試みたり、家族に集計表を作ってもらなど工夫しているが、書き込むのが苦手で難しい。当事者でないと分からないこともたくさんあると思う。やりやすい方法を考えてもらいたい。

●健康福祉課長補佐

車の送迎にもお金がでるが「この日は事業所がここまで送迎してくれて、ここからは家族が送迎」など、毎回の往復を3か月分記録するとすると、管理が大変というのは課題として承知している。

●健康福祉課長

近隣自治体の状況も調べて見直しを考えたいと思っている。相談いただいて、ご意見もいただきたい。

◇4. 健康維持や医療機関への受診に関する支援

●町長

受診支援については、ケアマネが受診同行するケースもあるがすべてではない。令和4年度から、利用者の保護者からの要望で職員健診と同じ日に健診を受けてもらうということはやっている。オークルさんや関係機関とも話をして、どういうことができるかを考えるのが現実的かと思う。また、公立芽室病院については、地域連携室にあらかじめ言っておくと事前に医師に状況を伝えてもらえるなどスムーズに進む場合があるが、皆さんの通院先が公立芽室病院とも限らないと思う。ケアマネ、施設、医療機関などと検討していくというのが現実。スパツとした良い答えになっていなくて申し訳ないのだが。

予防接種については、要望をいただいているが実現できていないので申し訳ない。

●どんぐり会参加者

現在、65歳以上であれば例えばインフルエンザなどの予防接種の補助がもらえる。同じように障がい者にも補助をしてもらえたら。障がい者は収入が少ない

ので、高額な予防接種は負担も大きい。町の補助が難しいならば北海道からの補助など。

●町長

調べてみたが、おっしゃっているような支援をしている自治体はない。感染すると重症化しやすい年代や重症化しやすい特定の疾患を持っている人への支援というのがベース。そのため、芽室町では高齢者と中学3年生と高校3年生への補助という税金の使い方をしている。障がい者への予防接種補助を絶対やらないというわけではないが、制度設計や予算化にあたっては、根拠のある説明が必要になる。引き続き検討をさせてもらうというところ。

●どんぐり会参加者

こういった制度は皆さんの税金を使って実施するが、詐欺まがいのことが出ると非常に残念なので、「障がい者で手帳を持った人」など説明しやすいように負担をかけないような形になってくれるとありがたい。

◇5. その他

●どんぐり会参加者

基幹相談支援センターを作っていただいてありがとうございます。4月にオープンして9月の報告会に参加したが、短期間でこれだけのネットワークを作れて、担当の方がすごいのか、芽室町がすごいのか、その両方かもしれないが、こんな風に横のつながりをもてて芽室町で本当に良かったと思う。

担当の方が「今は就労支援に重きを置く」とお話をされていたが、障がいを持つ人が65歳になるまでの行き場がない中で、基幹相談支援センターでそういったことに取り組んでもらえる可能性があるかどうかを聞きたい。

●町長

最初から無理ということは全然ない。そのための基幹相談支援センター。

●健康福祉課長

皆さんのお感じになっている課題を聞いて、芽室町に何が必要かを一緒に考えていただくことをお願いしているので、就労に特化したものではない。

●町長

地域包括支援センターと同居しており高齢者の福祉担当とも連携を取りやすいので、壁を取り払うという意味でも、私はやってよかったと思っている。ネットワークもできやすくなり、それをもっと広げていくのが全世代型の地域包括システムということだと思っている。

●どんぐり会参加者

町議会議員との意見交換でも伝えたが、障がい者の兄弟や保護者が高齢になり運転免許を返納した時に送迎ができなくなるため、支援を考えていただきたい。芽室町だけでは難しいかもしれないが。例えば帯広に映画を見に行きたいけど、公共交通機関を使えないという子もいるので、その辺も色々考えていただけたら。

●町長

特性があり公共交通機関を使いづらいということもあるので、特別な政策をしなければならないということになる。町全体も高齢化しているので、高齢者の移動手段の確保は課題であるが、公共交通機関を整備しても障がいをお持ちの方が使えない可能性もある。施設との行き来と生活の部分の移動は別問題なので、整理しながら考えていかなければならない。皆さんも高齢化しているので免許返納で大きな課題だと思っている。



20 時 13 分終了